

第1章 産業推進

産業振興課、農水産課

かつて平塚市には飛行機をつくる工場や繊維工場などがあり、それが現在にも生かされて、さまざまな産業分野の工場がある。農業については、県下第一位の生産量を誇る水田地帯と丘陵部の豊かな畑地を有している。また、戦後一大発展をとげた商業は、卸売業を主体に年間商品販売額では湘南地域有数となっている。さらに、漁業については、定置網・船引き網・刺網のほか、近年では恵まれた立地条件から遊漁業等の観光漁業が盛んである。

このように平塚市は豊かな風土とともに活発な経済活動が生まれ出る産業資源に恵まれている。今後の平塚市の商業・工業・農業・漁業を網羅した産業活性化の推進に当たっては、急激な社会・経済環境の変化に対応するため、環境共生型社会の構築や産業の情報化の推進とともに平塚市のポテンシャルを十分に活用した産業間連携の確立が求められている。

1 地場産業振興事業

(1) 湘南ひらつか名産品選定事業

地場経済・地場産業の振興を図るため、普及・宣伝活動として各種物産展等に参加するとともに、「湘南ひらつか名産品・特産品」のパンフレット等により市内外にPRを行った。各種物産展等としては、緑化まつり、七夕まつり、花巻まつり特産品フェア、JA湘南でてこいまつり等の市内外イベントに積極的に参加したほか、(一社)平塚市観光協会との連携を図り、市民プラザでの常設的な販売を実施する等、平成25年4月に選定された34品目の名産品・5品目の特産品の普及・宣伝活動を実施した。

ア 湘南ひらつか名産品 - 34品目

(ひらつか囲碁最中、都まんじゅう、湘南ボーイ、湘南ばら羊かん、なでしこ、囲碁のまちひらつか、平塚の里、湘南名菓 ほっくり、湘南ひらつかスターワールド きらっと、笹の香、バラの花びら、ばらジャム、じゃこ瓦、West Coast 湘南 はちみつラスク、湘南ポテト、七夕ふりかけ、湘南ひらつかカオリ麺、弦斎カレーパン、やまと豚 ロースハム、たたみいわし、味付落花生、サクサクちり煎、弦斎カレー、やまと豚 三味漬(ロース味噌漬)、さつま揚げ詰め合せ、たたみいわし燻製、太刀魚 中骨無しひもの、肉の石川 とん漬(神奈川県産 相模豚)、湘南八鶏 鶏まん、やまゆりポーク ロースハム、本格芋焼酎 くりまさり、相州だるま(2店)、干支だるま)

イ 湘南ひらつか名産品選定委員会特産品 - 5品目

(平塚トマト、平塚小松菜、平塚きゅうり、平塚いちご、平塚のバラ)

認定期間：平成25年4月1日～平成30年3月31日

(2) ふれあいマーケットの開催

生産者と市民がふれあいながら楽しんで買い物ができる憩いの場所として、また、地場産業の紹介と活性化を図ることを目的として「湘南ひらつかふれあいマーケット」を開催した。

ア 開催日 毎月1回・日曜日 午前7時から8時まで

イ 場 所	平塚市総合公園 南駐車場
ウ 店 舗 数	16 店舗（平成 28 年 3 月末日現在）
エ 出店内容	平塚産の農産物及び加工食品、花、平塚沖でとれた魚介類、湘南ひらつか名産品、食料品等
オ 入 場 者	年間約 7,900 人

2 金融総合案内事業

国・県・市の中小企業に対する支援情報を集めるとともに、これらすべての金融支援が紹介できる総合案内窓口を開設することにより、利用者にはさわしい金融支援を行った。

相談内容	説 明	件 数
融資相談	国の融資、県の融資等全般の相談	132
セーフティネット等認定受付	特別な融資保証枠の認定	154
経営サポート資金受付	資金に関する相談、受付	72
地球温暖化対策資金受付	資金に関する相談、受付	0
新創業支援資金相談	資金に関する相談、受付	19
経営革新事業支援	経営の向上等に必要な資金の相談や専門知識の提供	3
合 計		380

3 産業振興計画推進事業

平成 21 年度に策定した産業振興計画及び平成 30 年度まで本市が重点的に取り組む施策として平成 26 年度に策定した「アクションプラン」に基づき、実施計画等を策定し、商業・工業・農業・漁業・観光各々の活性化事業とともに産業間連携を視野に入れた産業振興施策を進めた。

4 起業家支援事業

起業家育成のためのセミナーを商工会議所と共催し、起業に関する情報提供や事業計画の作成支援を行った。また、「Hiratsuka フレッシュビジネス認定コンペティション」を実施し、創業風土の醸成に寄与するとともに、平成 25 年度及び 26 年度に認定した事業計画に対し「起業家経営見守り事業」を実施し、創業後の経営支援を図った。

5 中小企業経営支援事業

平塚商工会議所が実施する事業に対して補助することで、市内事業所の経営改善や発展が図られた。また、市内ものづくり企業の販路拡大に向けた支援を行ったことで、商談や受注に繋がり、市内産業の振興が図られた。

6 産業間連携促進事業

産業間連携を促進するため、市内の各産業界代表者や学識経験者等で組織する「平塚市産業活性化会議」を開催するとともに、諸課題を解決するため、各プロジェクトチームにおいて引き続き検討、実証実験等を行った。また、事業者の取組を支援するためのセミナーの開催、6 次産業化・地産地消費や中小企業地域資源活用促進法の認定事業者及び新事業・新商品開発の取組を検討している事業者に対し、商品開発や販路拡大などの支援を引き続き実施した。

7 融資及び信用保証料補助金・利子補給

中小企業の健全な育成振興を金融面から支援するため、取扱金融機関への預託による融資事業を実施し、信用保証料の補助事業、設備投資の促進や経営の安定化に資する融資に対する利子補給事業を行った。

・中小企業金融対策預託金 1,500,000 千円

・平塚市中小企業融資制度等利用状況（工業）

資金名		貸付件数	貸付金額
振 興 資 金	小企業運転資金	4 件	12,500,000 円
	運 転 資 金	43	316,900,000
	設 備 資 金	35	258,770,000
	中元・年末資金	0	0
経営サポート資金		19	326,000,000
セーフティネット保証資金		16	343,000,000
地球温暖化対策資金		0	0
経営革新事業支援資金		0	0
新創業支援資金		1	5,000,000
震災対応経営サポート資金		0	0
計		118	1,262,170,000

・平塚市中小企業融資制度等利用状況（商業）

資金名		貸付件数	貸付金額
振 興 資 金	小企業運転資金	5 件	6,100,000 円
	運 転 資 金	47	300,700,000
	設 備 資 金	15	66,900,000
	中元年末資金	2	6,000,000
経営サポート資金		23	232,400,000
セーフティネット保証資金		2	60,000,000
地球温暖化対策資金		0	0
経営革新事業支援資金		0	0
新創業支援資金		1	1,300,000
震災対応経営サポート資金		0	0
計		95	673,400,000

・中小企業信用保証料補助金交付状況（工業）

補助対象資金	補助件数	補助金額
平塚市中小企業融資制度	79 件	10,876,800 円
” チャレンジアップ資金	1	105,000
計	80	10,981,800

・中小企業信用保証料補助金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数	補助金額
平塚市中小企業融資制度	57件	7,450,800円
〃 チャレンジアップ資金	0	0
計	57	7,450,800

・中小企業設備資金等利子補給金交付状況（工業）

補給対象資金	補給件数	補給金額
振興資金（設備）	102件	3,579,600円
計	102	3,579,600

・中小企業設備資金等利子補給金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数	補助金額
振興資金（設備）	47件	1,525,500円
経営革新事業支援資金（設備）	2	26,700
新創業支援資金（設備）	3	17,200
計	52	1,569,400

・中小企業不況対策特別利子補給金交付状況（工業）

補助対象資金	補助件数	補助金額
経営サポート資金	83件	3,757,900円
セーフティネット保証資金	60	2,680,900
計	143	6,438,800

・中小企業不況対策特別利子補給金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数	補助金額
経営サポート資金	64件	1,513,500円
セーフティネット保証資金	26	971,300
計	90	2,484,800

第2章 農業・畜産業

農水産課

第1節 農業

本市の農業は、県下第一位の米の生産量を有する水田地帯と、なだらかな丘陵部の畑地を基盤とし、水稲・露地野菜・施設園芸・畜産等の複合経営が行われており、恵まれた自然条件と都市近郊という立地条件を生かし、多種多様な農産物が生産されている。

しかしながら、本市においても経営耕地の減少、農業従事者の他産業への流出等、農業経営環境の悪化が進み、遊休農地の活用も求められている。また、農業者の高齢化や後継者不足により将来の農業を支える担い手確保が緊急の課題となっている。

このような情勢下において、他産業と均衡のとれた調和ある農業の発展を図るためには、農業の経営安定を図ることが必要であり、そのために「平塚農業振興地域整備計画」に基づく事業の展開と農業生産の基盤となる農地や農道、用排水路等の基盤整備を進めてきた。

今後も、農業の持つ多面的機能を有効活用するとともに、魅力ある都市型農業の振興を図るための施策を展開していく。

1 農業構造と経営耕地の状況

いずれも 2015 年農林業センサス調べ
市内総世帯数は 2015 年 2 月 1 日現在

農家数（単位 戸）

市内総世帯数	106,294	農家比率 1.6%
総農家数	1,671	
販売農家	1,081	専業農家比率 24.6%
専業農家	411	
兼業農家	670	
自給的農家	590	

販売農家における農業就業人口（単位 人）

合計	1,891
男	983
女	908

地目別経営耕地面積

地目	面積 (ha)		
	田	畑	樹園地
面積 (ha)	622	385	27

水田の大部分は、農業構造改善事業等が早くから導入されたことにより、10aを基本とした長方形に整備されている。また、基盤整備事業の実施により、農道、水路の整備と暗渠の敷設により、大型機械の利用とともに、水田の汎用がしやすい状況となっている。

2 農業生産状況

稲作は、農業経営において基幹的な役割を果たしており、生産量は県内トップの2割を占めている。これまでの主力品種は「キヌヒカリ」であったが、市内にある研究機関が育種した「はるみ」が平成27年度から県の奨励品種として採用され、後継品種としてシェアを伸ばしつつある。

また、稲作の転作事業の長期的な実施に伴い、他作物への移行が進んでおり、施設園芸への転換では、トマト・キュウリ・いちごのほか、バラ・鉢物などが栽培されている。このうち、トマト・キュウリの栽培においては、最新技術の導入等により効率的な営農が展開され、生産物は京浜地方を中心に、市場に出荷されている。いちご栽培においては、栽培技術の研究や市場性の高い品種への転換などにより、良質果実の出荷が行われている。近年ではいちご狩りが盛況で、観光資源としての「農」が見直されている。

畑作は、年間を通じてほうれんそう・こまつな等の軟弱野菜栽培が栽培されており、春夏作ではキュウリ・なす・甘しょ・えだまめが、秋冬作ではねぎ・キャベツ・はくさい・大根・ブロッコリー等が主として栽培されている。また、水田営農活性化対策の一環として、ねぎ・さといも等が栽培され、産地を形成している。

果樹は、かき・なし・ぶどう等を中心に、病害虫防除の徹底と、整枝せん定により生産性の向上を図るとともに、販路システムの研究や優良品種の導入を進めている。

花きは、温室栽培が主流であり、市場性の高いバラやユリなどの切花や鉢物、花壇苗、洋蘭などを栽培し、その多くは関東一円の市場へ出荷されるほか、地元直売所へも出荷されている。また、近年の重油価格の高騰を受けて、電気による温度管理ができるヒートポンプの導入が進んでいる。

いずれの作物も、消費者の安心・安全志向に沿った登録農薬の適正使用や減農薬による環境に配慮した生産がされ、神奈川県との間に環境保全型農業推進団体として協定を締結する組織や、エコファーマーの認定を受ける生産者が誕生している。

近年、全国的な問題であり本市でも発生しているイノシシやカラス等による農作物被害対策では、平成24年度に「平塚市農作物鳥獣被害対策事業補助金交付金要綱」を制定し、農畜産業を営む者に対し、有害鳥獣防除用資材の購入に対する補助を実施している。また、平成27年度からは「平塚市鳥獣被害防止計画」に基づき、鳥獣捕獲の促進や鳥獣を寄せ付けない環境の整備や、捕獲強化のための「平塚市鳥獣被害対策実施隊」の設置により、さらなる被害対策の強化を進めている。

今後、さらなる農業経営の安定化のため、各種の支援事業を実施するとともに、6次産業化への取組支援や、少量多品種生産農家の販路拡大に向けた調査・検討を進めていく。また、地産地消の一層の推進のため、各種イベント等を通じ農業理解や農産物の普及並びに消費拡大を促進していく。

(1) 主な事業

- ア 農業理解促進事業
- イ サポートファーマー育成事業
- ウ 農業者金融支援事業
- エ 水田農業経営確立対策促進事業
- オ 担い手総合対策事業
- カ 農業振興対策事業
- キ 環境保全型農業推進事業
- ク 農作物鳥獣被害対策事業

(2) 類別作付経営体数(単位 経営体)

区分	経営体数	露地	施設
稲	267	-	-
雑穀・いも類・豆類	11	-	-
野菜類	198	139	59
果樹類	17	-	-
花き・花木	43	-	-

2015年農林業センサス調べ
主位部門の販売金額が8割以上

第2節 畜産業

畜産業は、宅地開発や住居の混住化等に伴い、環境改善対策施設の整備を始めとして、国内におけるBSEや口蹄疫、鳥インフルエンザ等の発生による感染症対策、農業従事者の他産業への流出による後継者不足、飼料価格の高騰、牛乳の消費低迷等、様々な問題が発生している。

このような厳しい経営環境の下、畜産環境改善対策の一環として、家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設の改修に対して、畜産農家への支援事業を実施した。また、家畜の伝染病対策として、平塚市畜産会を通して、県家畜保健衛生所及び県畜産会と連携し、予防注射の補助制度を設け、伝染病の発生予防に努めた。さらに、家畜の改良増殖と生産振興を図り、併せて市民に対して畜産業への理解を図るため、見学コーナーを含む平塚市畜産共進会を浅間緑地で開催した。

1 地区別飼養頭数の状況

平成28年3月31日現在

区分	地区名	土沢	金目	岡崎	金田	豊田	城島	神田	大野	計
乳用牛	農家数(戸)	15	2	2	3	4	2	2	3	33
	頭数(頭)	373	49	119	86	162	87	86	124	1,086
肉用牛	農家数(戸)		1			2				3
	頭数(頭)		37			64				101
豚	農家数(戸)		1	4		1				6
	頭数(頭)		280	5,149		1,312				6,741
鶏	農家数(戸)	1								1
	頭数(羽)	500								500

2 主な畜産振興施策

(1) 畜産経営技術講習会、研修会

畜産経営の向上のための技術講習会や研修会の開催を支援した。

(2) 平塚市畜産共進会

家畜の改良増殖と生産振興を図るため、平塚市畜産共進会を開催した。併せて、畜産業への理解を図るため、見学コーナーを設けた。また、でてこいまつりにてPRブースを出展した。

(3) 家畜伝染病予防注射事業

家畜伝染病予防法に基づく注射及び検査等について、県家畜保健衛生所と密接な連絡を取りながら、県畜産会との連携の下に家畜防疫推進のための支援事業を行った。

(4) 乳用とく育成管理共進会

優れた資質を持つ「とく牛」の基礎となる乳用牛の飼養管理及び育成技術の向上を図るため、共進会の開催を支援した。

(5) 家畜用浄化槽維持管理共励会

畜産環境の向上を目的に整備された家畜用浄化槽の適正な維持管理のため、関係機関とともに巡回指導を行う共励会を支援した。

(6) 自給飼料作物栽培促進対策

飼料高騰に伴う畜産農家の経営の安定と農地の遊休化防止及び自給率向上のため、自給飼料作物の栽培促進を図るために種子購入経費を補助した。

(7) 畜産環境対策促進事業

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、畜産農家が家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設を改修する際の費用の補助及び脱臭資材購入費の補助を行い、畜産環境対策の促進を図った。また、畜産環境の保全及び家畜防疫の推進を図るため、市内で畜産業を営む者が死亡家畜を処理する費用の一部を補助した。

第3節 土地基盤整備事業

土地改良事業は、農業経営の近代化に対応した生産基盤としての耕地の整備改良及び都市農業に対応した施策として、主に農業振興地域内を対象とした農道整備事業、用排水路改修事業を実施している。

(1) 土地改良事業に対する補助率等

区 分	農道・かん排・暗渠排水・用水・他
国庫補助 農業基盤整備促進事業	国費 50%、県費 20%、市費 30%
県費補助 農とみどりの整備事業	県費 50%、市費 50%
市単独補助 小規模土地改良整備支援事業	90%以内

(2) 土地改良事業

ア 国庫補助農業基盤整備促進事業

測量設計委託（堰改修） 1 箇所

イ 県費補助農とみどりの整備事業

農道改良 7 箇所 L = 286m

用排水路改修 1 箇所 L = 30m

ウ 市単独補助小規模土地改良整備支援事業

用水ポンプ施設修繕等

3 箇所 部品交換及び整備等

取水施設修繕等

5 箇所 部品交換及び整備等

暗渠排水整備・修繕

1 箇所 暗渠排水整備及び修繕等

第4節 ひらつか花アグリ推進事業

ひらつか花アグリは、神奈川県、平塚市、湘南農業協同組合、地元農家組織、地域住民等が協働して、農業への理解を深め、農業の振興に寄与することを目的に、県が市内寺田縄の旧農業総合研究所跡地に整備した「花菜ガーデン」と本市等が周辺に整備した「農の体験・交流の場」が一体となって様々な事業を展開している。

(1) 施設

神奈川県立花と緑のふれあいセンター花菜ガーデン

神奈川県が市内寺田縄の旧農業総合研究所跡地を整備して設置した施設で、四季折々の花木や草花の観賞ができるほか、体験圃場での農業体験や自然体験学習を行い、農業の理解促進や情報発信をしている。

J A 湘南あさつゆ広場

湘南農業協同組合が運営する大型農産物直売所。生産者と消費者のふれあいの場として、野菜や果物、花等を販売している。また、平塚漁港で水揚げされた水産物や地元の名産品も取り扱っている。

湘南いちご狩りセンター

地元のいちご生産者5名で組織する「ひらつか金田いちご狩り組合」が運営し、いちごの摘み取り体験ができる施設。J A 湘南あさつゆ広場内に案内所を設置している。

金田大型市民農園「マイ菜ファーム」

地元の農家組織「金田大型市民農園組合」が開設した大型市民農園（178区画）。水道の利用や農機具の貸出を行っている。

平塚市農の体験・交流館

本市が農業に親しむ場の提供と農業理解の促進を図る拠点としてエリア内に整備した施設。隣接する金田市民農園マイ菜ファームの運営の支援を行うほか、農園相談員による栽培相談を行っている。

(2) 主な事業

イベント

花菜ガーデンの「ローズフェスティバル」、あさつゆ広場の「友好都市フェア」など、各施設の単独イベントのほか、各施設が連携して「収穫祭」、「いちごフェア」、「周年祭」を実施し、エリア内を回遊させるため、スタンプラリーやクイズラリーを行っている。

花畑創出事業

地元農家と協働し、休耕期の水田を花畑にする取り組みを行っている。

農業体験事業

農業理解や食農教育推進を目的として、市民団体や地元農家組織と協働で「親子野菜づくり教室」、「採れたて野菜調理教室」や「米づくり体験隊」等を実施している。

(3) その他

平成27年度は、平塚市の友好都市である岩手県花巻市から、宮沢賢治生誕120年なることを記念し、宮沢賢治にゆかりのあるバラ（グルス・アン・テブリッツ）の苗木が平塚市に10本寄贈され、うち4本を花菜ガーデンに植栽した。

第5節 その他事業

1 担い手の育成や支援

(1) 農業者金融支援事業

・かながわ都市農業推進資金利子補給

家畜導入や農業機械導入等施設資金に対して、予算の範囲内において年1%以内の利子補給をした。

かながわ都市農業推進資金	延べ件数	53件
	利子補給額	750,700円

・農業経営基盤強化資金利子助成

農業経営基盤強化資金の融資を受けた認定農業者に対し、予算の範囲内において、公庫貸付金利(3.5%を上限とする)のうち、財政融資資金利率を勘案した利子助成率に対し市が利子助成をした。

農業経営基盤強化資金	延べ件数	3件
	利子助成金	15,847円

(2) サポートファーマー育成事業

農業者以外の市民を農業の補助的労働力として効率的に機能させるため、農業従事に向けての研修農場を開設し、農業技術習得の機会を設定し、育成した。

平成18年度から湘南農業協同組合の協力により実施しており、市民10名に対して実習を実施した。またJAサポートバンクに新規登録した者は6名となった。

(3) 認定農業者制度

「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」(平成26年9月改訂)に示された経営水準を目指して意欲的な農業者が経営改善計画を作成し、認定を受けた農業者に対して経営改善の支援をした。また、平成18年度に湘南地域担い手育成総合支援協議会を設立し、関係機関との連携のもと当該制度の効率的な推進と適切な運用を図っている。

認定農業者数(平成28年3月末現在) 累計222経営体
(新規認定:2経営体 再認定:73経営体)

(4) 農業経営改善支援活動

湘南地域担い手育成総合支援協議会と連携し、認定農業者制度等の普及・啓発及び認定農業者の育成・確保を行った。

2 でてこいまつりへ参加

本市の農業理解の促進を図るために、11月7日(土)~8日(日)に平塚市総合公園で開催された「JA湘南でてこいまつり2015」に参加し、各種PRを実施した。

県内一の生産量を誇る「米」の消費拡大運動を目的としたポン菓子配布、サポートファーマー

の活動紹介、花の消費拡大を目的としたミニフラワーアレンジメント体験等を実施した。また、平塚産農産物PRキャラクター「ベジ太」のPRブースを設置し、農産物に関するクイズラリーを実施し、地産地消の推進を図った。

3 市民農園整備支援事業

市民農園の開設に向け、市ホームページ等により農地地権者へのPRを行うとともに、農園開設の意向がある農地について、事前調査を行い、城島地区に1園開園した。

設置 24 か所 (1,235 区画) 平成 28 年 3 月現在 (金田市民農園マイ菜ファームを含む)

第3章 水産

農水産課

第1節 水産業

自然の海岸が多く残り、黒潮の流れを受ける外洋性の相模湾には四季折々1,300種類余りの魚が確認されている。そのほぼ中央に位置する平塚は、漁業の歴史も古く、16世紀半ばには組織的な漁業が行われていた記録が残されている。その後、時代とともに漁法が変遷してきたが、とりわけ一網100人以上の人手を抱えたブリの大謀網や、伊豆諸島近海を主漁場にして全国に名を馳せた「須賀のカツオ一本釣り」、最盛期には十数ヶ統の網元を数えた地引き網などが特筆される。

現在の漁業は、サバ、アジ、イワシなどを対象とした定置網漁業とシラス船引き網漁業を中心に、ヒラメやカレイを獲る刺し網なども行われ、新鮮な魚を水揚げしている。また近海カツオ一本釣り漁業から転向した遊漁船業は、恵まれた立地条件から県内外を問わず多数の遊漁客を集め、全国的に有名となっている。こうしたなか平塚市では、水産資源確保のためヒラメ等の稚魚の放流や、漁場の活性化のための海底耕うんなどを支援している。また相模川河口対策事業基金からの益金を活用し、航路の維持をはじめ様々な水産振興施策を展開している。また平塚新港内に平成14年度に荷さばき施設、平成15年度に製氷貯氷施設、平成16年度に殺菌冷海水供給装置施設を整備するなど、水産業の基盤整備を進めている。

1 魚種別水揚量

平成27年分

区分	総数	さば	いわし	あじ	しらす	その他
漁獲(トン)	591	303	83	47	66	92

2 利用船

平成27年分

種別		区分					
		利用船総数		地元船		外来船	
		隻数	トン数	隻数	トン数	隻数	トン数
漁船	無動力漁船	—	—	—	—	—	—
	動力漁船総数	47	443	45	441	2	2
	3トン未満	11	17	9	15	2	2
	3～5トン	5	21	5	21	—	—
	5～10トン	3	24	3	24	—	—
	10～20トン	28	381	28	381	—	—
	20～50トン	—	—	—	—	—	—
計		47	443	45	441	2	2

3 漁港施設

外かく施設：導流堤 908.7m、護岸 84m、防波堤 855m、防潮堤 207.7m

けい留施設：岸壁 594m、船揚場 35m、棧橋 250m、浮棧橋 314.7m

水域施設：泊地 50,566 m²、航路 14,966 m²

輸送施設：臨港道路 464.3m、駐車場 13,379 m²

4 主要施策

(1) 水産振興 (1,200 千円)

ア 水産団体の育成……負担金、補助金、交付金

イ 漁業振興対策……沿岸漁場活性化、栽培漁業導入推進
漁業振興対策交付金

ウ その他……海面利用調整、港勢調査、資源調査、その他の各種調査

(2) 漁港管理 (52,994 千円)

ア 漁港施設維持管理……フィッシャリーナ業務委託、漁港区域内清掃委託、施設の維持保全
及び修繕、機能保全工事設計委託

イ 河口対策事業……平塚市河口対策事業基金運用
航路維持対策
災害準備積立

ウ その他……フィッシャリーナ施設運営、河川占用物の保安全管理
漁港区域内海浜地・公共空地の管理・調査、その他の漁港関係調査

第2節 漁港整備

平塚漁港の漁港施設は、戦災復興都市としての区画整理事業の実施に伴い、相模川河口の自然港の須賀湊を、昭和 25 年に掘り込み式漁港として整備を実施し、引き続いて相模川河口部に、航路の確保を目的とした導流堤を建設してきた。

一方、相模川高度利用事業の進展によって、上流にダムや取水堰などが建設され、流下水量が減少したことによって、河口部に海からの漂砂が堆積し航路の維持に苦慮していること、また、遊漁船等の増加により漁港の狭隘化が進んだことから、平成元年度、新たに漁港施設を建設するため「新港整備計画」に着手した。

この計画に基づき、地域漁業の活性化と海洋レクリエーションとの共存を図ることを目的として、安全性、機能性、快適性等を向上させた漁港施設と、遊漁船等を収容するフィッシャリーナ施設の整備を実施してきたが、平成 11 年度に水域部分の施設が完成したことから、平成 12 年 7 月に開港し、暫定的に供用を開始した。さらに、漁業者並びに漁港利用者の利便性の向上を目的に、平成 14 年 6 月には新港背後地に駐車場を整備した。

今後は、漁港の機能向上を図るため管理施設、利便施設等の背後地整備を順次実施していく計画である。

1 漁港整備 (46,592 千円)

(1) 漁港利用調整事業

平塚漁港多目的利用施設整備事業負担金

第3節 平塚市水産物地方卸売市場

平塚市水産物地方卸売市場は平塚市が開設する公設市場である。その前身は昭和31年に、流通機構の改善と水産物の公正な取引き並びに生鮮魚介類の需要の増加に応えるため、本市が市場施設を建設したことにより、市有民営の形態を持つ魚市場として発足している。

そして昭和46年の卸売市場法制定、また翌年の神奈川県卸売市場条例の施行を受けて、昭和47年12月1日、本市は平塚市地方卸売市場業務条例を施行し、翌昭和48年3月1日、神奈川県知事の認可を受け、「平塚市水産物地方卸売市場」が誕生した。

その後の更なる水産物需要の増加に対応するため、昭和50年8月に市場施設の新築工事を行い、また、昭和51年度～52年度にかけては駐車場、倉庫等の付属施設及びその他付帯施設の工事を実施し、今日に至っている。

当市場は地元海産物が水揚げされる平塚漁港に隣接し、生産地市場の要素を含んだ消費地市場という特徴を持つ。実際に地元海産物の取扱状況を数量で見ると全体のおよそ22.2%、金額では8.6%（平成27年度実績）であり、その他はすべて陸上輸送による集荷に頼っている。

当市場に集荷された水産物は、卸売業者から小売業者が直接買い受け、平塚市を中心に、湘南・県央地域の市町村の他、かなり広い範囲にわたって分荷されている。

1 平塚市水産物地方卸売市場取扱状況

(1) 取扱数量

単位：トン

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一 般 鮮 魚	674	728	661	680	714
転 送 鮮 魚	83	69	65	55	60
地元水揚鮮魚	474	401	639	618	515
冷 凍 品	243	235	191	195	191
塩 干 品	884	869	796	859	845
合 計	2,358	2,302	2,352	2,407	2,325

(2) 取扱金額

単位：千円

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
一 般 鮮 魚	664,890	667,936	648,216	690,352	734,849
転 送 鮮 魚	83,921	80,941	81,377	69,215	70,927
地元水揚鮮魚	144,378	139,937	158,429	165,460	171,864
冷 凍 品	235,705	219,672	215,832	242,251	241,914
塩 干 品	728,693	689,667	660,840	766,475	775,715
合 計	1,857,587	1,798,153	1,764,694	1,933,753	1,995,269

第4章 商業観光

商業観光課

第1節 商業

戦後一大発展をとげた平塚商業は、かつて本市の商圈であった近隣都市やロードサイドへの大型店等の進出、コンビニエンスストアの出店などによって、本市の中心商店街の集客力が低下し、商圈の縮小を余儀なくされている。

これを打開するため、中心市街地活性化法に基づき、平成13年度に策定した平塚市中心市街地活性化基本計画により、平塚商工会議所が設立した「湘南ひらつか TMO」による「チャレンジショップ」や「手づくり食工房」等の事業運営などを行ったが、平成18年の法改正で、基本計画の法的な位置づけが無くなり、「湘南ひらつか TMO」は平成22年度に終了した。その後、平成24年度に、平塚商工会議所により中心市街地活性化調整協議会が組織され、空き店舗に出店する事業者へ家賃補助を行う「平塚市中心市街地出店促進事業」等の中心市街地の活性化事業を開始した。また、商業の活性化には、個々の商店が魅力的、個性的であることが重要なため、個店の活性化を積極的に進め、平成21年度には、平塚商工会議所と平塚市商店街連合会の共催により、個店が逸品を打ち出すことで、魅力的、個性的な店舗づくりを推進する「平塚逸品研究会」が発足した。さらに平成25年度から、販売促進や経営支援等を目的に専門知識や経験を有するアドバイザーを派遣し、平成26年度からは、手作業にこだわり、伝統的な技や卓越した技術力等により、自店及び自社で製造した製品を販売する店舗及びサービスの提供を行う店舗を「匠の店」として認定する制度を開始した。

今後の本市の商業発展には、多様化、高度化する消費者ニーズに応える商店街の形成や近隣都市や近郊のショッピングセンター等との差別化を図る個性豊かな中心商店街づくり、商業集積を核とした文化・産業・娯楽などの複合したまちづくりに向けた具体的な事業の実施が課題である。

1 商業の推移

(1) 卸売業・小売業の推移

区分	種別	16年	19年	26年
商店数	卸売業	568店	537店	379店
	小売業	2,068	1,973	1,237
	計	2,636	2,510	1,616
年間商品販売額	卸売業	417,327百万円	475,319百万円	322,526百万円
	小売業	250,771	267,780	216,409
	計	668,098	743,099	538,936
1店当り販売額	卸売業	73,473万円	88,513万円	85,099万円
	小売業	12,126	13,572	17,495
	計	25,345	29,605	33,350
従業者数	卸売業	5,119人	6,369人	3,580人
	小売業	15,377	15,872	12,223
	計	20,496	22,241	15,803

平成26年商業統計調査結果

注：平成26年調査は、日本標準産業分類の第12回改定及び調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、前回実施の平成19年調査の数値とは接続しない。端数処理により、合計額が合わない場合がある。

ア 卸売業

東京卸売圏にあり比較的卸売の弱い神奈川県にあって、横浜市・川崎市・厚木市・相模原市に次いで販売額第5位となっている。

イ 小売業

小売業の年間商品販売額は2,164億円で、横浜市・川崎市・相模原市・藤沢市・横須賀市・小田原市に次いで7位となっている。

(2) 小売業業種別状況

業 種 別	商 店 数	従業者数	年間商品販売額
百貨店・総合スーパー	1店	82人	X百万円
その他の各種商品	9	132	X
呉服・服地・寝具	22	77	768
男子服	19	95	1,788
婦人・子供服	78	528	6,919
靴・履物	18	57	1,105
その他の織物・衣服・身の回り品	60	340	3,251
各種食料品	28	2,102	34,188
酒	28	99	1,577
食肉	13	45	349
鮮魚	29	96	1,164
野菜・果実	27	250	3,214
菓子・パン	76	709	4,844
その他の飲食品	178	2,327	26,789
自動車	105	893	29,482
自転車	19	39	331
家具・建具・畳	18	89	1,707
機械器具	54	512	20,214
じゅう器	21	58	610
医薬品・化粧品	138	1,226	24,323
農耕用品	4	40	2,299
燃料	54	467	17,194
書籍・文房具	33	530	5,689
スポーツ用品・玩具・娯楽用品・楽器	36	236	4,278
写真機・時計・眼鏡	20	101	1,152
他に分類されない小売業	112	797	12,315
通信販売・訪問販売	25	142	3,672
自販機による小売業	5	71	2,524
その他の無店小売業	7	83	442
計	1,237	12,223	216,409

平成26年商業統計調査結果

(3) 人口に占める大型小売店の状況

地域別	人口	店舗数	1店舗当り人口	売場面積	1㎡当り人口	販売額	人口一人当り販売額
県	9,100,346人	680店	13,383人	3,052,931㎡	3.0人	231,301,693万円	25.4万円
平塚市	256,970	22	11,680	71,986	3.6	4,795,900	18.7

平成26年県大型小売店統計調査結果

(4) 卸売業業種別状況

業種別	商店数	従業者数	年間商品販売額
各種商品	2店	4人	X 百万円
繊維製品	1	4	X
衣服	8	21	837
身の回り品	4	17	X
農畜産物・水産物	30	552	57,619
食料・飲料	33	596	22,296
建築材料	53	460	115,770
化学製品	23	187	13,409
石油・鉱物	10	75	9,196
鉄鋼製品	6	56	2,133
非鉄金属	3	17	308
再生資源	13	111	2,054
産業機械器具	39	316	9,569
自動車	33	237	12,592
電気機械器具	24	181	14,260
その他の機械器具	17	194	11,762
家具・建具・じゅう器等	22	105	5,330
医薬品・化粧品等	14	161	26,233
紙・紙製品	6	30	1,891
他に分類されない卸売業	38	256	X
計	379	3,580	322,526

平成26年商業統計調査結果

注：「X」… 1または2の事業所に関する数値で、個々の申告者の秘密が漏れるおそれがあるために秘匿した箇所。また、3以上の事業所に関する数値であっても、前後の関係等から秘匿の数値が判明する箇所も同様に秘匿している

2 主要施策

人々の価値観や消費者ニーズは高度化、多様化してきており、これらに適切に対応した経営力強化のための経営意識の啓発、商店街施設の改善、店舗の魅力アップ、商業指導などの推進施策を行った。

(1) 商業活性化の推進

ア 商店街にぎわい創出事業

(ア) 中心街活性化事業

中心市街地の活性化のため、事業の企画・実施を行う「中心市街地活性化調整協議会」の運営に対して支援を行った。

(イ) にぎわい創出事業

市民とのふれあい促進、商店街の魅力発信など商店街の活性化を図るため、商店会が行う交流事業や販売促進活動事業への支援を行った。

(ウ) 商店街アドバイザー派遣事業

商店街の活性化を推進するために、商店街団体が行う事業に対し助言するアドバイザーを派遣した。

派遣商店会数 2 商店会 派遣回数 延べ 5 回

(エ) 地域活性化事業

国の「地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）」を活用し、消費者の生活支援と消費拡大による地域経済活性化を図るため、「キラリ 平塚プレミアム商品券事業」を実施した。

イ 市民プラザ運営補助事業

産業振興と市民の生活文化及びコミュニティの向上を図るため、展示と催事ができる多目的のホールとして設置された「ひらつか市民プラザ」の管理・運営に伴う経費等の補助を行った。

・49 行事 入館者延べ 38,054 人 1 日平均入館者 137 人

(2) 魅力ある商店街の形成

ア 商店等魅力アップ推進事業

(ア) 店舗コンクール

個性的で魅力的な店舗づくりを行っている優良小売店舗、飲食店舗等のコンクールを実施した。

(イ) 商業経営セミナー

カタログ撮影のための商品スタイリング講座を実施した。

開催回数 2 回 参加者 延べ 21 人

(ウ) 個店アドバイザー派遣事業

専門知識や経験を有するアドバイザーを派遣し、個店における販売促進や経営に関する支援を実施した。

派遣店舗数 8 店舗 派遣回数 延べ 24 回

(I) 平塚逸品研究会

新規顧客の開拓、リピーターの確保のため、各店のお勧めの逸品を発掘、開発するための活動に対し支援を行った。

開催回数 14回 参加者 延べ612人

イ 商店街共同施設整備促進事業

商店街の環境整備を図り、その発展に資するため商店街が共同で整備する街路灯、アーケード、防犯カメラの新設、改修及び撤去の費用の一部補助を行った。

ウ 商店街共同施設維持管理事業

商歩行者及び買い物客等の安全性、利便性及び快適性を高めるために、商店街に整備された商店街団体が管理する施設の電気料、上下水道料、アーケードの清掃等の維持管理に要する経費の一部補助を行った。

(3) 商業経営環境の強化

ア 平塚市商店街連合会補助事業

平塚市商店街連合会の運営に対し補助を行い、その育成に努めた。

第2節 計量

商工業者にとっては、量目等の正確な計量は、品質の向上、経費の節減等に直接関係することであり、また、消費者の信頼を醸成するためにも極めて重要である。本市の計量事務は、定期検査、立入検査及び啓発普及活動を通じて市内商工業の活性化に寄与することを主眼に実施した。

1 特定計量器の定期検査

取引・証明に使用する計量器（はかり）に2年に1回義務付けられている検査を、市内商工業者等を対象に、市の指定定期検査機関である（公社）神奈川県計量協会が実施した。また、市公共施設の計量器について、市が直接検査を行った。

- ・ 電気式はかり・機械式はかり

はかりの種類（ひょう量）		検査台数
電気式	100kg 以下	191 台
	250kg 以下	45
	500kg 以下	1
	1000kg 以下	1
	100kg 以下（精度 1 万分の 1 未満）	10
機械式	直線指示ばかり他	3 台
	100kg 以下	199
	250kg 以下	10
	500kg 以下	0
計		460

・ 大型はかり

はかりの種類（ひょう量）	検査台数
1t 以下	0 台
10t 以下	0
20t 以下	1
40t 以下	2
50t 以下	0
60t 以下	1
計	4

・ 市公共施設で使用されているはかり

施設区分	検査台数	手数料収入
公立保育園	9 台	5,400 円
公立幼稚園	1	500
公立小学校	8	9,200
公立中学校	9	11,000
その他公共施設	1	500
計	28	26,600

2 立入検査

計量法第 148 条に基づいて、計量器・量目に関する立入検査を行った。平成 27 年度に検査対象としたのは、LPGメーター、ガソリンメーター及び商品量目検査。

検査対象		事業所数	検査個数	不適正個数
計 量 器	LPGメーター（台帳検査）	2	3,502	0
	ガソリンメーター	4	50	0
	質量計	4	33	0
量 目	スーパーマーケット（中元）	2	240	0
	スーパーマーケット（年末・年始）	2	175	0
	商品試買検査（スナック菓子）	1	25	0
計		15	4,025	0

3 計量管理思想の推進

県の定める、7月及び12月の「正量取引強調月間」及び11月の「計量管理強調月間」に、啓発用ポスター・ステッカー等を関係事業所や公共機関に掲示した。また、市のホームページに「平塚市の計量」を掲載するとともに、消費生活展では計量コーナーを設け、計量の普及啓発に努めた。

11月には、自ら計量管理を実施する適正計量管理事業所を対象に、県と合同で実態調査を実施した。

第3節 観光

近年、充実した余暇活動の場の提供が望まれている折から、比較的観光資源が乏しいといわれる本市においても、東に湘南潮来、西に湘南平をはじめとする「平塚八景」、その他市内に散在する数々の史跡、旧跡や伝統芸能等、市民の欲求にこたえられるものが数多くみられる。これらの観光資源の紹介、そして七夕まつりをはじめとする各種観光行事を実施するとともに、近隣市との広域連携や関係諸団体との連携などによる新しい観光資源の開発などにより、市民生活に潤いを与えつつ市民の郷土に対する愛着を深める諸事業を実施した。

1 湘南ひらつか七夕まつりの開催

戦後の復興まつりとして始まった七夕まつりは第65回の節目を迎えた年となった。

「七夕掲出促進対策委員会」がポスターやHPで飾りのPRをしたり、企業版市民飾りの募集をおこなったりして、湘南スターモールの飾りが3年連続で増え、85本となった。うち、昨年から試行的に取り組みを始めた「企業版市民飾り」は地元3社から申込みがあった。

アーケードが撤去された東横イン前では、神奈川県「さがみロボット産業特区」の看板・飾りが掲出され、アーチとともにメインストリートの入口として賑わいを見せた。

期間中は全日中で天候に恵まれず、初日午前「七夕おどり千人パレード」が中止となった。2日目は雨の止んでいる間があり、「織り姫と音楽隊パレード」は実施することができた。前年と今年の織り姫2代とマスコットキャラクターとして湘南ベルマーレの「キングベル 世」、平塚競輪場の「ウインディくん」がオープンカー3台に乗車し、音楽隊は、神奈川県警音楽隊、陸上自衛隊東部方面音楽隊が参加するとともに、地元の小学生が構成する「SOZEN マーチングバンド」および地元小中高生が主体となる「トワリングチーム湘南 fatina（ファティーナ）」もパレードに参加した。

見附台広場の七夕ステージでは、公募による市民パフォーマーや織り姫の紹介、女子プロレスラーによるパフォーマンスなどを行ったほか、平塚青年会議所によるご当地グルメイベントの「湘南ひらつか七夕たからいち」が開催された。

- (1) 主催 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
(平塚市、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会、(一社)平塚市観光協会等)
- (2) 後援 神奈川県、(公社)神奈川県観光協会、東日本旅客鉄道(株)横浜支社、神奈川中央交通(株)、小田急電鉄(株)、神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)、(株)湘南ジャーナル社、(株)湘南リビング新聞社、(株)タウンニュース社、湘南ケーブルネットワーク(株)、(株)湘南平塚コミュニティ放送
- (3) 期 日 7月3日(金)～5日(日)
- (4) 開催補助金 60,472,000円
- (5) 観光客数 1,450,000人(3日間)
- (6) 主な行事 織り姫セレクション、七夕飾りコンクール、七夕ステージ、市中訪問、織り姫と音楽隊パレード、湘南ひらつか七夕たからいちなど

2 湘南ひらつか花火大会の開催

夏の風物詩として好評の湘南ひらつか花火大会は、市民を始め一般観光客の誘致を図り観光地を紹介するため開催された。

- (1) 主催 平塚市
- (2) 実施団体 湘南ひらつか花火大会実行委員会
(平塚市、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会、(公社)平塚青年会議所、(一社)平塚市観光協会等)
- (3) 後援 神奈川県、(公社)神奈川県観光協会
- (4) 期日 8月28日(金)
- (5) 開催委託料 8,000,000円
- (6) 観光客数 140,000人

3 観光団体

(一社)平塚市観光協会

- (1) 会員 93人(団体93、個人0) 役員27人(会長 平塚商工会議所会頭)平成28年3月31日現在
- (2) 予算

○一般会計	21,345千円
○特別会計(観光史跡整備資金)	253,500円
○特別会計(市民プラザ運営管理事業)	6,748千円
○特別会計(市民プラザ常設販売事業)	1,413千円
- (3) 主な実施事業

○シロギス沖釣り大会	5月30日(土)	参加者159人
○観光風景写真コンクール	募集5月25日(月)~7月24日(金)	応募点数686点 展示10月29日(木)~11月3日(火)
○菊花展・菊花コンクール	11月1日(日)~11月15日(日)	応募点数 約200鉢
○湘南ひらつか七福神めぐり	計6回実施	参加者94人

観光客誘致事業

 - ・ひらつか市民プラザ内「観光物産販売コーナー」での名産品展示販売

○地域観光資源情報発信事業

 - ・webサイト「湘南ひらつかなび」による各種情報の提供やフェイスブック等での情報発信
 - ・オンラインギフトショップ「平塚ギフト」・バナー広告掲載
 - ・旅行ガイドブック「ことりっぷ 平塚さんぽ」(平成27年9月追加発行) 35,000部
 - ・湘南ひらつか観光マップ改訂版発行(平成28年3月発行) 70,000部

4 主な名所の年間観光客数（神奈川県観光客入込調査報告書による）

○湘南平 480,000人

○湘南潮来 161,000人

5 近隣市町との広域観光

湘南地区観光振興協議会

協議会の一員としてPR用リーフレットを作成するとともに、県外キャンペーン等の誘客活動を行った。

丹沢湘南観光連携会議

東海大学や近隣市町等と連携し、在日外国人向けのバスツアーを行った。

10月25日（日）参加者40人 湘南平（昼食と眺望）ほか他市町

圏央道沿線でのキャンペーン

神奈川県観光協会と連携し、圏央道沿線である埼玉県所沢市で誘客活動を行った。

10月25日（日）第36回所沢市民フェスティバル会場内（埼玉県所沢市）

上野東京ライン沿線でのキャンペーン

神奈川集中観光キャンペーンと連携し、横浜駅で誘客活動を行った。

10月20日（火）及び10月21日（水）横浜駅東口・新都市プラザイベントスペース

横浜市鶴見区との連携

当市及び横浜市鶴見区が発行した無料配布冊子「ことりっぷ」を切り口に、住民相互の誘客推進を目的に、モニターバスツアーを実施した。

6月6日（土）参加者25名（鶴見 平塚）花菜ガーデン、美術館ほか

6 観光資源の紹介

○ホームページにより市内観光資源を紹介した。

○健康ウォーキングとの連携ハイキング

健康推進員連絡協議会と連携し、健康ウォーキングとして、観光資源を巡るハイキングを実施した。

10月31日（土）参加者80人 七福神巡り

2月9日（火）参加者84人 総合公園、平塚宿跡ほか

○平塚市民・大学交流委員会事業

公募により参加した東海大学観光学部生の視点で平塚市内の観光資源を掘り起こし、学生目線の平塚散策コースマップ作成を進めた。

やすらぎ回廊「水と光と緑の散歩道～平塚のバラの名所をまち歩き～」ハイキング

やすらぎ回廊を広くPRするとともに観光素材を発掘、調査をし、今後の観光ツアー等に活用するためにモニターハイキングツアーを実施した。

5月20日（水）参加者29人 旧横浜ゴム記念館、(株)パイロットコーポレーション、総合公園、ホテルサンライフガーデンほか

第5章 工業

産業振興課

平成26年12月31日現在で実施された「工業統計調査」について、その主要項目から、本市の概況をみると次のようになっている。

(1) 事業所数

製造業を営む事業所数は357事業所で、前年に比べ14件(3.8%)減少した。

(2) 従業者数

製造業に従事している従業者数は19,870人で、前年に比べ452人(2.2%)減少した。

(3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等は1兆494億7,200万円で、前年に比べ302億4,000万円(3.0%)増加した。

1 中小企業の振興対策

日本経済の中核としてその役割を担っている中小企業にとって、特性のある製品開発と精度の高い品質保証は、その企業の成長、業績の向上のために必要不可欠となっている。

しかし、こうした技術の活用・導入には、多額の資金を要するため、中小企業発展の課題となっている。本市としても中小企業を取り巻く経営環境の変化に対応し、活力と創造力あふれる企業づくりを支援するために、国・県の中小企業施策に併せながら、次のような主要事業を展開した。

(1) 企業立地等促進事業

工業の活性化と雇用機会の促進を目的とした従来の工業活性化促進事業を更に充実させた制度を新たに設け、平成22年4月から申請受付を開始している。また、平成26年度からは、施設整備助成の補助対象期間を2年間延長するとともに、企業立地奨励助成及び市内発注奨励助成を追加するなど、支援内容を拡充している。

・施設整備助成

企業が市内に事業所等を新設又は増設した際、土地、家屋、償却資産の取得にかかった費用が一定基準以上(大企業は3億円以上、中小企業は5千万円以上)の場合に、固定資産税、都市計画税相当額の2分の1の額を7年間助成する。(限度額:助成累計5億円。企業立地奨励助成と市内発注奨励助成を含む)

平成27年度適用申請 2件

平成27年度交付実績 15件 83,957,000円

・企業立地奨励助成

施設整備助成適用企業が、研究所や情報通信業の用地、又は5,000㎡以上の用地を取得した場合に、対象となる土地の固定資産税、都市計画税相当額の2分の1の額を初年度に限り助成する。

平成27年度交付実績 1件 4,399,000円

・市内発注奨励助成

施設整備助成適用企業が、新規に購入する建物及び償却資産の全額を、市内企業に発注し、支払をした場合、当該建物及び償却資産の固定資産税、都市計画税相当額の2分の1

の額を初年度に限り助成する。

・新規雇用助成

施設整備助成適用企業が、市内在住者を常用従業員として21人以上(中小企業の場合は1人以上)雇用した場合に、超えた雇用1人につき30万円(中小企業の場合は50万円)を助成する。また、超えた雇用者のうち20歳未満の者、60歳以上の者及び障害者雇用の促進等に関する法律で定める障がい者を雇用した場合には、奨励加算として20万円を助成する。(限度額:1,000万円)

平成27年度適用申請 2件

・環境設備助成

施設整備助成適用企業が、雨水活用設備を設置した場合には貯水量1m³につき5万円を乗じた額(限度額100万円)を、太陽光発電設備を設置した場合には発電能力1kwにつき10万円を乗じた額(限度額300万円)を、風力発電設備を設置した場合は発電能力1kwにつき5万円を乗じた額(限度額100万円)を助成する。

平成27年度交付実績 1件 1,500,000円

・中小企業設備投資促進助成

市内の中小企業が、生産の拡大、生産品の変更、新製品の開発及び生産のため設置する機械及び装置等で、総額2,000万円以上のものを対象に取得額の2%を助成する。(限度額:300万円)

平成27年度交付実績 2件 1,969,000円

(2) 産学公共共同研究支援事業

新製品開発、技術開発等、技術革新を進める市内中小企業者等が大学等と共同研究に係る契約を締結した場合に、費用の一部を補助した。

制度名	補助件数	補助金額
産学共同研究事業化支援補助金	4件	2,000,000円

(3) 中小企業退職金制度の整備・充実の促進

独立行政法人勤労者退職金共済機構の行っている中小企業退職金共済制度及び商工会議所が取り扱っている特定退職金共済制度への加入を促進する目的で共済掛金の一部を補助した。

・中小企業退職金共済掛金補助状況

制度名	申請件数	対象人員	補助金額
中小企業退職金共済制度	57件	321人	1,249,200円
特定退職金共済制度	3件	15人	66,150円
計	60件	336人	1,315,350円

(4) 環境にやさしい企業づくりの支援

環境共生型企业懇話会

環境共生・発信都市ひらつかを目指して、環境にやさしい企業活動を推進することを目的とする企業が中心となり、環境改善活動を通して企業の活性化及び相互の連携の強化を図るため、平塚市環境共生型企业懇話会を4回開催し、活動報告を2回行った。

・会員事業所数 31事業所

(5) 湘南ひらつかテクノフェアの開催に伴う支援

企業間及び大学との技術交流を深め、新規取引の拡大と産学連携を図ることを目的として、平塚商工会議所などで構成された実行委員会により「湘南ひらつかテクノフェア 2015」を開催した。このテクノフェアでは会場内に設置したブースに、参加した企業や学校、その他団体等が自社製品や紹介パネル等を展示することによって、製品や活動内容を広くPRすることができた。

平成 27 年 10 月 22 日（木）～24 日（土） 会場 ひらつか サン・ライフアリーナ

- ・主管 湘南ひらつかテクノフェア実行委員会
- ・出展者数 106 企業（学校、その他団体等を含む）
- ・来場者数 9,500 人

2 その他

産業功労者表彰式では、市の産業の発展に功労のあった工業界功労者 3 人、優良中小工場経営者 2 人、農水産業界功労者 2 人、商店会功労者 1 人及び優良永年商店経営者 1 人を表彰した。

発明・考案・特許相談の窓口を開設し、相談に応じた。

第 48 回平塚市児童生徒創意くふう展を 10 月 22 日から 24 日までひらつか サン・ライフアリーナを会場に開催した。夏休みを利用して創作した児童生徒の作品を、学校単位に小学校 25 校 75 点、中学校 8 校 38 点の合計 33 校 113 点を展示した。

なお、その中から 19 点を第 74 回神奈川県青少年創意くふう展覧会に出品し、特別賞に 1 点、優良賞に 2 点が選ばれた。

第6章 労働行政

産業振興課

我が国では、景気は緩やかな回復基調が続いており、雇用情勢も改善傾向にある。少子高齢化による労働力人口の減少が進み、人口減少時代にあっては、女性や高齢者の活用の重要性が注目されてきており、仕事と子育てや介護との両立、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向けた取組が必要とされている。

これらに対応するため、労働関係行政機関との連携を図り、就労支援や勤労者の福祉施策などを行った。

1 就労支援事業

(1) ニート 親のためのセミナー・相談会

近年増え続けている「ニート」と呼ばれる若者のための施策として、「ニート」の親を対象としたセミナー及び相談会を、青少年課及び神奈川県西部地域若者サポートステーションと連携し開催した。

会場 平塚市青少年会館

講師 特定非営利活動法人子どもと生活文化協会 和田 重宏 氏

（県西部地域若者サポートステーション受諾団体）

ア 相談会

- ・平成27年9月15日（水） 相談件数 6件
- ・平成27年11月13日（金） 相談件数 8件

イ セミナー

- ・平成27年9月15日（水） 参加者数 11人
- ・平成27年11月13日（金） 参加者数 16人

(2) 就労支援セミナー

平成27年度は、求職者の就労を支援し、在職者の定着を支援するセミナーとして、企業合同就職面接会直前セミナー及びビジネスマナー講座を開催した。

ア 企業合同就職面接会直前セミナー（対象：39歳以下）

平成28年2月1日（月） 会場 平塚市勤労会館 参加者 5人

イ 企業合同就職面接会直前セミナー（対象：40歳以上）

平成28年2月12日（金） 会場 平塚市勤労会館 参加者 8人

ウ ビジネスマナー講座（対象：39歳以下、在職者可）

平成28年3月14日（月） 会場 平塚市勤労会館 参加者 28人

(3) 企業合同就職面接会

就職・再就職を希望する方と求人企業との直接の出会いの場をつくり、効率よく就職活動が行えることを目的として「企業合同就職面接会」を、関係機関及び近隣市と連携し開催した。

主催 平塚市 共催 平塚公共職業安定所、平塚商工会議所、伊勢原市

平成28年2月15日（月） 会場 平塚プレジール

- ・参加事業所数 33 事業所
- ・参加求職者数 53 人（うち、採用された求職者数 6 人）

(4) 就労相談

就職に悩んでいる方やその家族を対象に、問題解決の糸口がつかめるように経験豊富なキャリアコンサルタントが個別相談に応じた。

- ・会場 平塚市勤労会館
- ・実績 毎月 2 回 年間相談件数 49 件

2 技能者表彰

技能の練磨及び後進の育成を目的に、その職種の向上発展に功績のあった方を表彰した。被表彰者は 24 人で、技能功労者 10 人、優秀技能者 14 人であった。

- ・平成 27 年 10 月 22 日（木） 会場 ひらつか サン・ライフアリーナ

3 勤労者福祉対策

勤労者の福祉の増進、生活の安定と向上を図るため、次の事業を実施した。

(1) 勤労者生活資金融資事業

勤労者の生活の安定と向上を図るため、「平塚市勤労者生活資金融資要綱」に基づき「中央労働金庫」に対し預託を行った。

なお、融資対象者は、市内に居住又は市内の同一事業所に 1 年以上勤務する方。

平成 27 年度の利用件数は、328 件（新規 56 件）で融資額は 344,954,000 円（新規 93,880,000 円）であった。基本となる金利は、上半期・下半期ともに年 1.80% であった。

(2) 勤労者住宅資金利子補給事業

市内に居住する勤労者の住宅取得促進を図るため、「中央労働金庫」から住宅資金の融資を受けた場合に、その利子の一部を補給した。

受給資格は、市内に居住し、市税の滞納が無く、自己が所有して自ら居住する住宅（宅地を含む）を市内に新築（増改築を含む）又は購入した方に対して、住宅については 400 万円、宅地については 200 万円を限度に 48 か月利子補給する。平成 27 年度は住宅 21 件で 83,200 円、土地 15 件で 30,550 円、合計 113,750 円を利子補給した。

なお、平成 23 年 3 月 31 日の融資実行分をもって、新規申請受付を休止している。

4 中小企業福利厚生支援事業

中小企業の従業員及びその事業主の福利厚生の増進等の事業を、会員事業所に対して実施している平塚市勤労者共済会に補助金 15,200,000 円を交付した。

平塚市勤労者共済会は、平成 6 年 4 月に事業を開始し、平成 28 年 3 月末現在の会員数は、495 事業所、1,537 人となっている。

平成 27 年度の福利厚生事業として、文化教養事業では各種教室等の 8 事業に 130 人が参加、レクリエーション事業（スポーツ大会含む）では 17 事業に 645 人の参加があり、割引あっせん事業では各種チケットをあっせんした。

5 勤労会館利用状況

働く市民の福祉の増進及び教養文化の向上に向けた活動の場を提供するため、昭和55年7月に開館した。平成27年度の利用実数は次のとおりである。

利用総人数 41,109人

6 技能職団体「親子ものづくり教室」

技能文化の向上と技能職種に対する理解をより深めてもらうため、親子を対象に市内各種技能職団体による工作教室を実施した。

平成27年度は5団体に参加協力を得て、銅板の表札づくり、本立て・道具箱・巣箱づくり、光る泥だんごづくり、たたみコースターづくり、電気の相談会を8月23日(日)に平塚駅北口中心商店街で実施した。

7 機関紙発行

労働問題等についての国、県等の資料をもとに、「勤労ひらつか」を毎月発行し、市内の企業・労働組合等を中心に配布し、情報提供に努めた。

8 労働講座の開催

勤労者の知識と教養を深めるため、神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催で、平成27年度の労働講座を次のとおり開催した。

会場 神奈川県平塚合同庁舎 別館会議室

開催日	テーマ	講師	参加者数
平成28年 2月3日(水)	職場の安全配慮義務と改正労働安全衛生法 ~ストレスチェックの義務化と職場の安全衛生~	社会保険労務士(元横浜南労働基準監督署長) 片寄 茂夫 氏	29人
2月5日(金)	労働契約の基本と改正ポイント ~労働基準法のポイントと改正動向~	法政大学法学部 講師 山本 圭子 氏	29人
2月10日(水)	労働契約の基本と改正ポイント ~非正規雇用と派遣法改正のポイント~		30人
2月16日(火)	労使でチェック!マイナンバー制度の運用開始	社会保険労務士法人 澤代表社員 澤邑 重夫 氏	22人

第7章 公営事業

事業課

第1節 競輪事業

本市の競輪事業は、昭和25年開設以来本市財政に大きく貢献してきた。近年は入場者数や車券発売収入ともに減少傾向にあり大変厳しい事業環境にある。平成27年度は特別競輪等の開催はなかったものの、開催日数が増加したこと、また、場間場外発売場の拡大に取り組んだことなどから、平成26年度に比べ入場者数及び車券発売収入がともに増加した。なお、一般会計繰出金は1億5千万円となった。

1 事業実績

平塚市営分

(単位 円)

区分	開催回数	開催日数	入場者数	入場料	車券発売収入
26年度	10	43	153,822	26,779,800	17,173,790,000
27年度	12	49	156,925	28,164,000	19,968,346,400
前年度比	2	6	3,103	1,384,200	2,794,556,400

入場料、車券発売収入には、設置した臨時場外分を含む。

区分	(公財)JK A 交付金	地方公共団体金融機構 納付金	一般会計 繰出金
26年度	340,370,997	0	250,000,000
27年度	394,870,483	0	150,000,000
前年度比	54,499,486		100,000,000

収益金とその用途

(単位 千円)

区分	総務費	民生費	衛生費	農林水産業費	商工費
26年度		23,087	44,556		
27年度		20,416	89,990		

区分	土木費	消防費	教育費	他会計 への 繰出金	合計
26年度		36,161	146,196		250,000
27年度		12,155	27,439		150,000

27年度収益金

150,000千円

2 施設

- (1) 競輪場面積 58,677 m²
- (2) 競走路 周長400mアスファルトマッコネル緩和曲線
直線26.782m 幅員 ホーム11m バック9.3m コーナー部7.5m
路面傾斜 最高31度28分37秒 最低3度26分01秒

- (3) 投票券発売・払戻所 11 箇所 191 窓 (うち自動発売機 51 自動発売機 8)
- (4) 特別観覧所 2 箇所
- (5) 来場者用駐車場 12 箇所 駐車可能台数 3,069 台
- (6) 自転車置場 無料 1 箇所 978 m²

平塚競輪の主な最高記録 (特別競輪、特別競走及びルビーカップは除く)

平成 28 年 3 月 31 日現在

車券売上	1 開催の最高	平成 17 年 5 月	13,558,672,500 円
	1 節の最高	平成 13 年 5 月前節	6,951,039,700
	1 日の最高	平成 16 年 5 月 3 日 4 日目	4,877,077,500
	1 レースの最高	平成 15 年 5 月 5 日 11R 平成 13 年 12 月 30 日 10R	1,387,899,600 1,287,090,200
入場者	1 開催の最高	昭和 52 年 5 月	155,929 人
	1 節の最高	昭和 52 年 1 月前節	91,011
	1 日の最高	昭和 52 年 1 月 3 日 1 日目	39,372
払戻金		昭和 36 年 11 月 22 日 第 4 日目 同レース売上金 831,600 円 3 R 4 - 4 的中票数 2 票 311,850 円 (平成 13 年 12 月 9 日 3 連単導入以降)	
		平成 15 年 11 月 1 日 第 1 日目 同レース売上金 21,138,400 円 8 R 6 - 4 - 1 的中票数 3 票 3,011,950 円 (重勝式) 平成 22 年 10 月 21 日 第 2 日目 (チャリロト・7 重勝) 6 R ~ 1 2 R 3 - 2 - 8 - 9 - 9 - 5 - 3 的中票数 1 票 905,987,400 円 (発売口数 57,107 口)	

第 43 回日本選手権競輪の記録 (平成 2 年 3 月)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	10,207,966,900 円	24,440,818,000 円	34,648,784,900 円
1 節の最高 (後節)	6,026,634,900	19,651,877,500	25,678,512,400
1 日の最高 (6 日目)	2,392,419,400	8,062,590,400	10,455,009,800
1 レースの最高 (6 日目 11R)	894,779,300	3,007,092,400	3,901,871,700
入場者数	109,787 人	561,460 人	671,247 人

共同通信社杯 (ルビーカップ) レースの記録 (平成 3 年 10 月)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	714,594,400 円	1,003,786,200 円	1,718,380,600 円

競輪グランプリ '92 の記録 (平成 4 年 12 月)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	1,804,206,000 円	6,133,358,400 円	7,937,564,400 円

第40回オールスター競輪の記録(平成9年9月25日~30日)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	9,233,068,100円	29,808,030,600円	39,041,098,700円
1日の最高(6日目)	2,376,941,000	8,593,640,400	10,970,581,400
1レースの最高(6日目11R)	1,064,909,700	3,061,397,100	4,126,306,800
入場者数	80,577人	936,472人	1,017,049人

KEIRIN グランプリ01の記録(平成13年12月30日)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	2,169,932,500円	6,130,017,900円	8,299,950,400円

第56回日本選手権競輪の記録(平成15年3月)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	5,968,105,200円	22,914,352,400円	28,882,457,600円
1日の最高(6日目)	1,557,720,400	6,384,303,200	7,942,023,600
1レースの最高(6日目11R)	681,263,500	2,138,407,200	2,819,670,700
入場者数	60,731人	1,015,017人	1,075,748人

KEIRIN グランプリ05の記録(平成17年12月30日)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	1,580,228,100円	5,038,984,700円	6,619,212,800円

第60回日本選手権競輪の記録(平成19年3月)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	4,700,551,600円	17,777,517,400円	22,478,069,000円
1日の最高(6日目)	1,197,703,800	4,681,624,600	5,879,328,400
1レースの最高(6日目11R)	518,841,700	1,513,357,400	2,032,199,100
入場者数	47,241人	961,875人	1,009,116人

KEIRIN グランプリ08の記録(平成20年12月30日)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	1,485,797,500円	4,227,209,800円	5,713,007,300円

KEIRIN グランプリ2011の記録(平成23年12月30日)

	平塚競輪場	場外	合計
車券売上	1,470,237,100円	3,675,227,200円	5,145,464,300円

【バンク記録】

平成6年5月5日 上がり200mタイム 10秒5(日本新記録) 時速68.6km

吉岡 稔真(福岡)

平成20年5月4日 上がり200mタイム 10秒5(上記記録タイ) 時速68.6km

山崎 芳仁(福島)

平成25年5月6日 上がり200mタイム 10秒5(上記記録タイ) 時速68.6km

深谷 知広(愛知)